

## リニア新幹線沿線信用金庫共同調査

# リニア中央新幹線に関するアンケート調査結果概要(1)

## ～長野県・飯伊地域は期待と不安が交錯～

当金庫が取り組んできたリニア沿線地域信用金庫連携の一環として、本年度関係金庫によりリニア沿線地域での共同調査を実施した。山梨県が甲府信用金庫・山梨信用金庫（本店：両金庫とも甲府市）の2金庫、岐阜県が東濃信用金庫（本店：多治見市）と当金庫の4信用金庫である。山梨信金は神奈川県橋本などに、東濃信金は愛知県内に店舗網があるため、調査は神奈川・山梨・長野・岐阜・愛知の5県に跨る広域的なものとなった。

沿線調査の結果については、現在4金庫により取りまとめと共同コメントの準備を進めている最中であり、今回は、当金庫調査の飯伊地域を中心とする長野県分について、結果概要を紹介する。

### 1 長野県分の調査概要

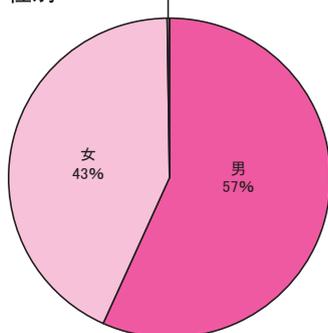
当金庫のアンケート調査は、本年6月飯伊地域を中心に当「飯伊地区産業経済動向」の調査先および配布先にアンケート調査票を発送し協力をお願いした。また、当金庫本支店23店舗で店頭または訪問先の取引先などに依頼し回収した。ご協力いただいた方々にはこの場を借りてお礼申し上げます。

回収数は430件となり、前回（平成27年度）の調査の回収数330件を上回り、当地域での意識の高まりを感じるものであった。うち回答者の10代には、下伊那農業高校の3年生1クラスが協力いただいている。

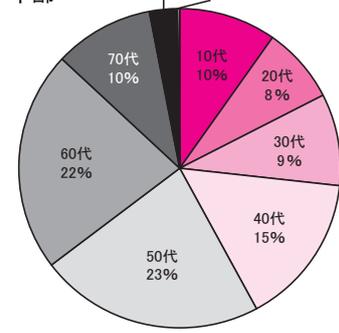
更に、アンケート調査期間の終盤になって、別に飯田OIDE長姫高校の3年生ほぼ全員の227名から協力を得ることができた。この分を含めると回答者の年齢別構成が従来調査結果とは大きく変わるものとなるため、この分は別途「リニア中央新幹線 高校生の意識」といった形で集計し、報告することとしたい。

回答者の属性概要

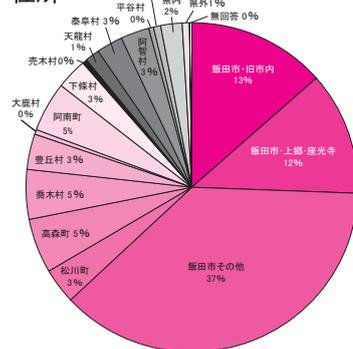
性別



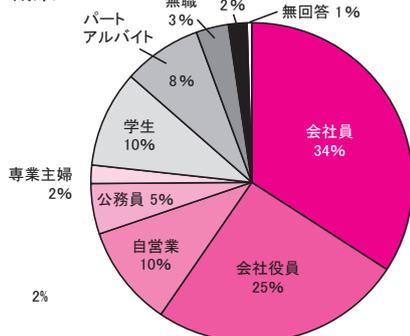
年齢



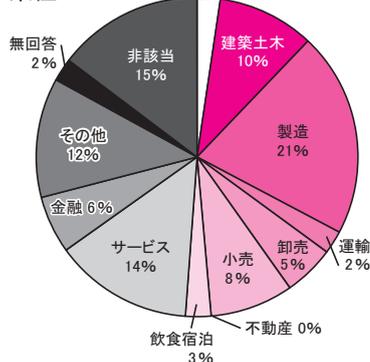
住所



職業



業種

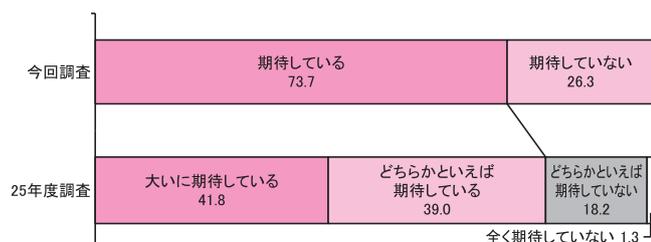


回答者は、「飯伊地区産業経済動向」の調査先、配布先が多数を占めているため、事業所トップからの回答が多く「職業」で「会社役員」が多い(25%)。また会社役員以外にも、事業所の幹部社員、経理担当者などからの回答が多く、どちらかというとなら経済界、産業界の意見を反映したものであると思われる。

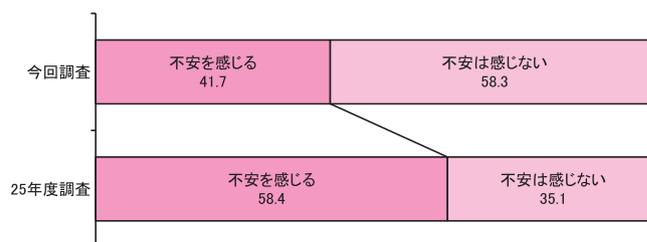
## 2 リニア中央新幹線への期待度・不安度は

当金庫では、平成25年度にも経営相談所(当時)により、リニアアンケート調査(以下「25年度調査」という)を実施している。今回は、定点観測として、25年度調査と同一の質問項目を設定した。

### Q リニア中央新幹線に期待しますか



### Q リニア中央新幹線に不安を感じますか



「リニア中央新幹線に期待していますか」の設問では、今回調査で「期待している」が73%、「期待していない」は26%であった。25年度調査では設問が「大いに期待している」「どちらかというとなら期待している」の区分でお尋ねしているが、合計で80%、「どちらかというとなら期待していない」「全く期待していない」計で19%となっている。両調査の違いとして考えられるのは、

- ① 25年度調査時点では飯田に駅ができることなどが決まったものの、リニア新幹線および関連事業について全貌が判明していない時点での判断だった。
- ② 25年度調査も「飯伊地区産業経済動向」調査先・配布先を中心にお尋ねしているが、一般住民の比率が今回調査より少ない(より産業界の期待が反映されていた)。
- ③ 今回調査に至るまでの間、リニアおよび関連事業の内容が判るようになってきて判断が明確になってきた(変化してきた)。

などが考えられる。「期待する」の判断の上では、リニアの乗車料金がどれほどになるか、が今後重要な判断材料と考えられる。

次に、「リニア中央新幹線に不安を感じますか」という設問について、今回調査では「不安を感じる」は41%、「不安を感じない」は58%となった。「不安を感じる」とする比率が減少しているのは、「期待していますか」の設問の要因と同様で、この間多くの情報が得られて来ていることが最大の要因と思われる。

今回、「不安を感じる」方が自由記入で書いていただいた項目別に検索してみた。

- ・「不安を感じる」の回答 170
- ・うち自由記入いただいた方 144
- ・回答に次のキーワードを含む
 

「人口」(減少・流出) 29	「工事」(遅れ・進捗) 5
「ストロー」(効果・現象) 14	「景観」(破壊・劣化) 3
「自然」(破壊等) 13	「対応」(来訪者・観光客への) 3
「事故」(工事中・開通後等) 12	「喪失」(地域の資源・大切なもの) 2
「環境」(破壊・劣化) 11	「若年」(人口の流出等) 2
「騒音」 10	「反社」(の流入) 2
「通過」(駅・点) 10	「街」(の変化等) 2
「電磁波」 8	「財政」(圧迫等) 2
「料金」(乗車料金等) 5	

### 3 リニアに関する認知度は総じて高い

リニア及び関連事業について、「以下（の計画）についてご存知ですか」として、各項目を尋ねた。

当地域の方々は「リニア新幹線の開業時期」、「リニア本線の通るルート」、「リニア長野県駅の場所」の項目で、「よく知っている」「聞いたことはある」合計で90%程度、他県では70～80%程度であり、当地域での認知度が他県より高くなっている。その中で特に、「開業時期・よく知っている」の回答では当地域は43%であるが、神奈川県、山梨県は10%台半ばとなっている。岐阜県は30%半ばで当地域に続いている。

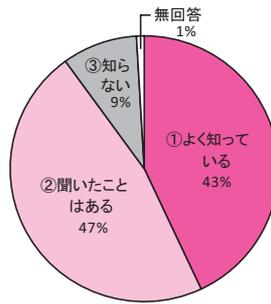
「品川～長野県駅の所要時間」「長野県駅～名古屋駅の所要時間」では両方の合計で80%前後であるが、「品川～長野県駅の乗車料金」「長野県駅～名古屋駅の乗車料金」は「よく知っている」「聞いたことはある」計で40%台とやや低いものの、他県が20%程度であることをみるとこれも高い水準にある。これについては長野県がリニア新幹線の料金を試算して発表し、新聞等で報道されたことが一因と考えられる。

当地域が他県に比較して全般的に各項目で認知度が高いのは、前項の「新幹線へ期待する」において、当地域が73%であったの対し、山梨県2金庫の調査（東濃信金には質問項目なし）では40～50台%に止まっています、この期待値の違いが現れているものとみることが出来る。

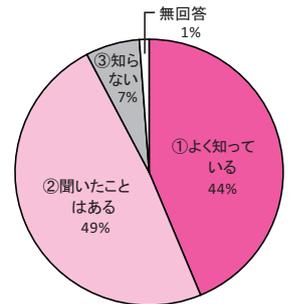
「スーパーメガリージョン」については、当地域では「よく知っている」6%、「聞いたことはある」13%と認知度が低いが、それでも神奈川、山梨、岐阜、愛知の各県（「よく知っている」「聞いたことはある」合計で10～15%程度）と比べると認知度は高い結果となっている。

#### Q 以下についてご存知ですか

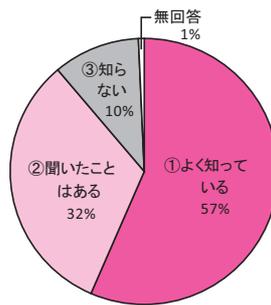
■ リニア新幹線の開業時期



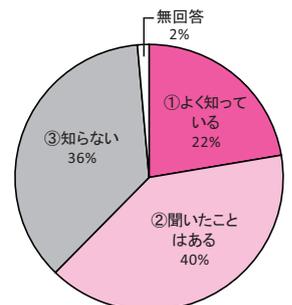
■ リニア本線の通るルート



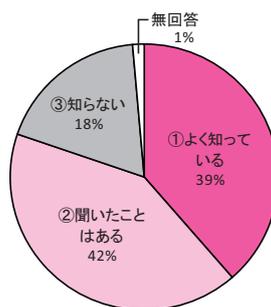
■ リニア長野県駅の場所



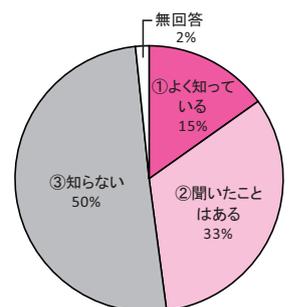
■ アクセス道路・駅周辺整備



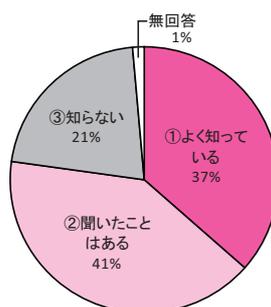
■ 品川～長野県駅の所要時間



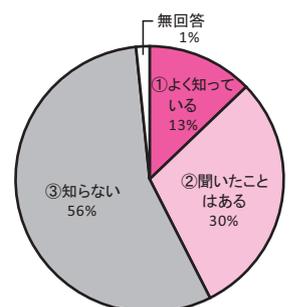
■ 品川～長野県駅の乗車料金



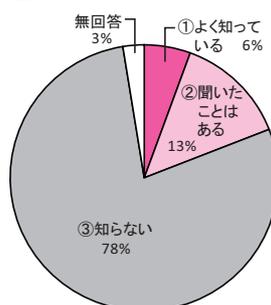
■ 長野県駅～名古屋駅の所要時間



■ 長野県駅～名古屋駅の乗車料金



■ スーパーメガリージョン



#### 4 リニアの利用、利用する駅は ～当地域は圧倒的に「長野県駅」～

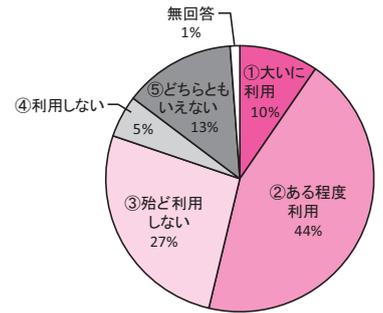
リニア中央新幹線の利用や期待感、リニアの影響について尋ねた。

リニアの利用・乗車については「大いに利用」「ある程度利用」合計で55%。県別にみると、神奈川、山梨、岐阜、愛知の各県は20%台であり、当県・地域の期待の大きさが窺われる。

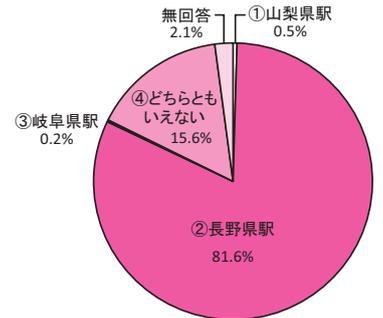
リニアを利用する駅（乗降する駅）では、当地域では「長野県駅」との回答が81%となった。前の設問の「大いに利用」「ある程度利用」と回答された方の殆どが「長野県駅」と回答。「殆ど利用しない」と回答した方にも利用駅を「長野県駅」とする方が8割方あった。乗降駅を「どちらともいえない」とする方は、リニア利用の「利用しない」「どちらともいえない」回答が占めた。

県別にみると、神奈川県で「神奈川県駅」としているのは71%、山梨県で「山梨県駅」とするのが79%。岐阜県では「岐阜県駅」は30%台（「名古屋駅」とする回答も30%程度あり）、愛知県では「名古屋駅」とするのが50%程度で、長野県調査では「地元駅を利用」とする回答が他県を上回っている。

■ リニアの利用は



■ 乗降する駅



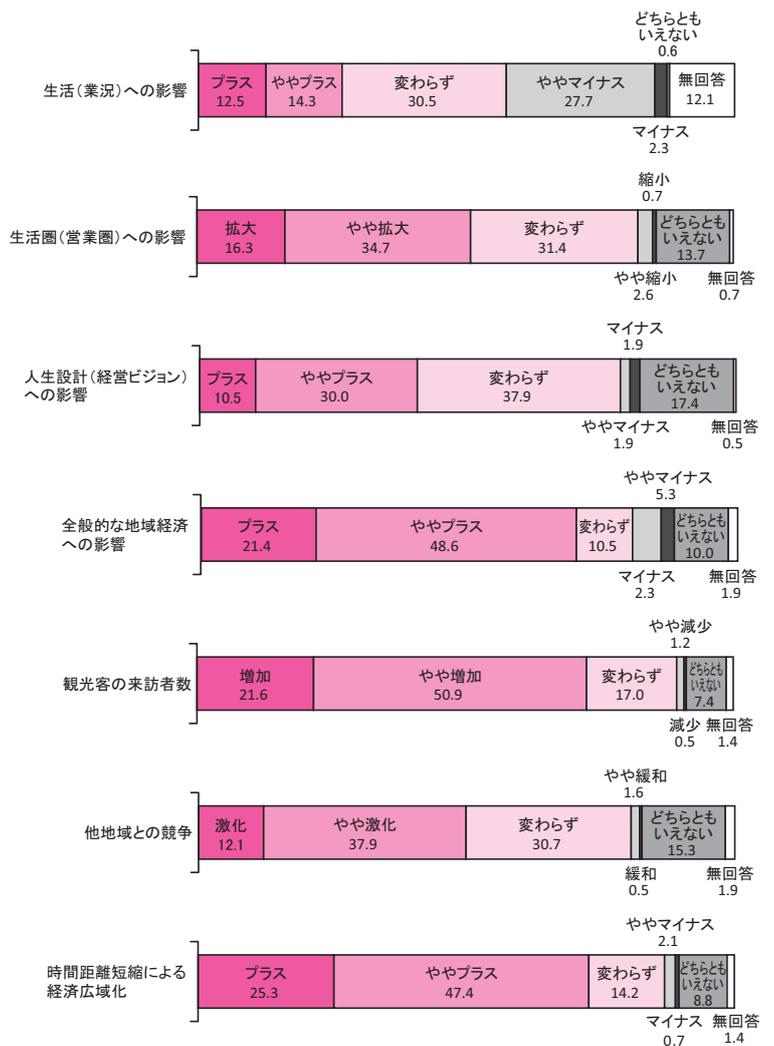
#### 5 リニアの影響 総体の状況認識は

リニア新幹線の考えられる影響について幾つかの項目を設定してお考えを伺った。

これらを概観すると、「時間距離短縮による経済広域化」について「プラス」「ややプラス」計で72%と、開通による主要な環境変化と捉えられているように見える。「全体的な地域経済への影響」も同計で70%、「観光客の来訪者数」も「増加」「やや増加」が72%とリニア新幹線によるこれらに及ぶ好影響への期待が高いことを示している。

他方で「他地域との競争」では「激化」「やや激化」計50%と厳しくみており、「生活圏や営業圏への影響」が「拡大」「やや拡大」計51%で好機と捉えているものの、生活や業況への影響は「プラス」「ややプラス」計は26%に止まっている。リニアの開通を、当地域に大きな環境変化をもたらすものと考え、プラス効果に期待しながらも自らの事業等には確実な見通しを得ていない状況があるものと推測される。

更に、個別項目についての当地域の見通し等については続いて次回以降で紹介したい。



(飯田信用金庫 地域サポート部 リニア対策課 加藤 修平)